

やまのべのすくねあかひと 伊予の温泉に至りて作る歌

一首 并せて短歌

三三二番

皇神祖の 神の命の 敷きいます 国のことごと  
湯はしも さはにあれども 島山の 宜しき国と  
こごしかも 伊予の高嶺の 射狭庭の 岡に立た  
して 歌思ひ 辞思ほしし み湯の上の 木群を  
見れば 臣の木も 生ひ継ぎにけり 鳴く鳥の  
声も変はらず 遠き代に 神さび行かむ 行幸処

反歌

三三三番

ももしきの 大宮人の 熟田津に 舟乗しけむ  
年の知らなく